

## 第4章 さらなる充実に向けた取り組み

### 1. 学力向上に向けた取り組み

- (仮称) 中野ミニマムスタンダードの策定
  - ・ その学年で確実に身に付けるべき基礎的内容を「(仮称) 中野ミニマムスタンダード」として策定し、全ての教員が確実に指導できるようにする。
  - ・ 「(仮称) 中野ミニマムスタンダード」の定着状況を把握するための「確認テスト」等の仕組みをつくる。
- 学習規律の体系化
  - ・ 学びの基本となる、授業規律や学習規律を体系化し、各学校が工夫して取り組むことができるようにする。
  - ・ 「学びのルール」を体系化することにより、小学校から中学校への滑らかな接続を図る。
- 学習習慣の確立
  - ・ 学校の授業と家庭学習を連動させ、学びの定着を図るため家庭学習の習慣が身に付くようにする。
  - ・ 「家庭学習の手引き」等の資料を作成し、児童・生徒や保護者への啓発を行う。

### 2. 教員の授業力向上に向けた取り組み

- 若手教員育成を柱としたOJTの仕組みを確立する。
  - ・ 授業力向上を核とした「学びあう教師集団」により互いに学ぶ学校組織をつくる。
  - ・ 授業力評価の視点や基準をつくることにより、客観的な評価ができるようにする。
- 教員マイスターの活用によるOJTによる授業力向上
  - ・ 教員マイスターによる公開授業や示範授業の機会を増やし、自らの授業改善に役立てる。
  - ・ 教員マイスターを各校の校内研究会講師として指導・助言を受けることにより、学校全体の研究レベルを向上させる。

### 3. 家庭・地域の教育力の向上に向けた取り組み

- 家庭の教育力向上に向けた取り組み
  - ・ 関係機関等との連携により家庭教育の大切さについて啓発していく。
  - ・ 「家庭学習の手引き」等の資料を作成し、児童・生徒や保護者への啓発を行う。(再掲)
- 地域との連携強化のための取り組み
  - ・ 児童・生徒が学校で習得した学習内容を実践する場として地域を位置付け、計画的に実践していく。
  - ・ 地域との連携を円滑に進めるための仕組みをつくる。

### 4. 学校と地域の連携を支えるしくみづくり

- 地域に支えられる学校
  - ・ 学校支援ボランティアの養成と活用により、児童・生徒に豊かで多様な体験

の機会を提供する。

- ・ 学校間の連携と地域の協働により異年齢交流と世代間交流の機会を拡充する。
- ・ 課題を抱える子どもを支える地域の取り組みを推進する。
- 地域コミュニティの核としての学校
  - ・ 地域の情報を収集し、発信する機能を強化する。
  - ・ 学校関係者・地域団体等が気軽に集える場を提供する。
- 大学等との連携
  - ・ 大学との連携により人材を確保し、学校支援を推進する。
  - ・ 大学との共同研究により、カリキュラム開発や指導法開発に取り組む。